

小児医療施設ボランティアコーディネーターの会 “発足記念フォーラム報告”

—病気の子どもと家族の療養環境の向上を目指して—

—（公財） キリン福祉財団助成事業—



小児医療施設ボランティアコーディネーターの会



神奈川県立こども医療センター講堂にて 2018年10月20日

参加者66人（小児医療施設17施設）
 ①宮城県立こども病院②自治医科大学とちぎ子ども医療センター③福岡市立こども病院④群馬県立小児医療センター⑤埼玉県立小児医療センター⑥千葉県立こども病院⑦神奈川県立こども医療センター⑧静岡県立こども病院⑨あいち小児保健医療総合センター⑩大阪府立母子総合医療センター⑪四国こどもとおとなの医療センター⑫沖縄県立南部医療センター⑬こども医療センター⑭国立がんセンター中央病院⑮慶應義塾大学病院⑯順天堂医院⑰国立国際医療研究センター⑱神奈川県立総合療育相談センター（コーディネーターの他ボランティア、NPO団体等）

第1号 2019/1/30
 事務局
 東京都新宿区若松町 10-1-302
 ☎080-5527-4379
 代表 坂上和子

「小児医療施設ボランティアコーディネーターの会」
 報「ボラコ新聞」第一号をお届けします。本会は2012年「全国小児病棟遊びのボランティアネットワーク」を引き継いで2018年に設立されました。小児医療施設のボランティア活動を活発にすることで療養環境を向上させたいと本会を立ち上げました。

新聞発行にあたって

- ### プログラム
- “コーディネーターの会” 発足記念フォーラム
 病気の子どもと家族のためによりよい療養環境目指して
- 開催日：2018年10月20日（土曜）
 会場：神奈川こども医療センター講堂
- 1, 開会挨拶・坂上和子「コーディネーター組織化に向けて」
 - 2, 基調講演・山下純正神奈川こども医療センター総長「ボランティア活動推進のために」
 - 3, パネルディスカッション 「私たちの活動」
 沖縄・大阪、愛知、神奈川、宮城のこども病院のボランティアコーディネーター
 - 4, 野中淳子・神奈川県立保健福祉大学教授「ボランティア活動とコーディネーターをめぐる課題」
 - 5, 閉会挨拶・加藤悦興神奈川こども医療センターVC
 16時半～17時 名刺交換 翌日病院見学ツアー



コーディネーターの仕事語る5人のVC



私たちは宮城、神奈川、愛知、沖縄、大阪のこども病院のボランティアコーディネーターです。お互いの病院やカナダのこども病院に行ったりして、自分たちの役割を見直し、スキルをあげる必要性を感じています。つながることで情報を得てさらにより良い療養環境を目指します！！

立ち上げの挨拶 代表・坂上和子
 （NPO法人病気の子ども支援ネットワーク遊びのボランティア理事長）
 第1回目は17病院から66人が参加下さいました。会の立ち上げの主な理由は、①子どもの入院にはボランティアが必要なこと、②そのために調整役がいること、③コーディネーターたちがお互い情報交換をして学び合い、普及啓発を目的とすることです。本会の前身に「全国遊びのボランティアネットワーク」がありました。お互いの病院を回ったとき、コーディネーターたちは1人職でよその病院はどんなことをしているか、どうやってボランティアと協力しているか、情報を欲しがっていました。子どもの入院には市民がお手伝い出来ることはたくさんあります。待合室や病棟での遊び相手、きょうだいの託児、絵本の読み聞かせ、ソイキング、病院の装飾、庭の手入れなど、全国を回ってみるとそれぞれ特徴ある素敵な活動がみられました。コーディネーターが集まると「それならうちも出来るかも」となり、それまで自分の病院しか見えていなかった視野が広がります。中でも高度医療の病院には難病のため、遠方からやってくる親子がいて、医療スタッフだけでは出来ないことをボランティアが助けていました。コーディネーターのつながりはこれからの小児医療を変えるに違いありません。本会はこれまでタケダ薬品工業（株）、キリン福祉財団の企業助成を頂いてきました。人・物・金がうまくまわり、社会全体で小児医療の環境が向上されることを目指しています。

5病院のボランティア活動の現状 病棟での遊びや学習・きょうだい預かりも（2018年10月報告）

病院	A	B	C 小児がん拠点病院	D 小児がん拠点病院	E
病院創設	2006年4月	2003年11月	1970年5月	1981年10月	2001年11月
病床/2015年度	全体 434床・小児 116床	241 (病院 160・施設 81)	419床 (病院 329、施設 90)	375床	200床
教育保育	あり	あり	あり	あり	あり
コーディネーター	非常勤1名 採用は2013年	常勤1名 採用は2003年	非常勤1名 採用は2005年	非常勤1名 採用は2008年	無 保育士が兼務
前職と職歴	自院の元看護師 2年目 (2代目)	自病院の元言語聴覚士 2年目 (4代目)	自病院の元看護師 4年目 (2代目)	自院の元ボラ 2年目 2代目	保育士兼務
ボラ数	70名	260人	368人	150人	60人
ボランティア活動歴	12年開院時から	15年 開院時から	45年	23年	15年 開院時から
ボラ会議/研修/年	運営委員会 小委員会ボランティア代表者会等	研修会、ボランティア会議等	運営会議年・調整会議年・外来ミーティング/研修等	ボラ委員会、連絡会議、養成講座、自主運営会議等	研修会、オリエンテーション等
収入	バザー 寄付		小児医療基金 バザーワゴン		職員寄付と病院予算
ボランティア自己負担	病院によってボランティア保険、検診費用 (X線・4抗体検査)・交通費等様々である。中でも検診は費用が1万円程度かかり、ボランティアの自己負担が大きく、ボランティア促進の阻害要因との声がある。				
病院サービス	前年度 100 時間以上活動達成者表彰と記念品授与・茶話会忘年会の参加	会議室、図書室の利用 駐車場利用表彰制度 (感謝状と記念品授与) 院長自記筆	会議室、図書室の利用、5年以上に表彰マスク・消毒用アルコール等衛生用品支給	駐車場利用 検診費用 総長より感謝状と記念品が授与。エプロン貸与	駐車場利用 マスク・消毒用アルコール等衛生用品支給 交流会 年1回
活動内容	外来、プレイルーム 環境整備 遊び・学習・兄妹預かり・他	外来、プレイルーム 環境整備、遊びや学習支援 兄妹預かり・他	外来、プレイルーム 環境整備、遊びや学習支援 兄妹預かり・他	外来、プレイルーム 環境整備、遊び 兄妹預かり・他	外来、プレイルーム 環境整備、遊びや学習支援 兄妹預かり・他
広報	H・P 通信	H・P 記念誌	H・P通信・ブログ	H・P 通信	H・P

山下純正総長の講演

★当院は 1975 年には日本病院慈善会オレンジ会が発足して、ボランティア活動の歩みが始まった。
 ★昔は医者というのがそのまま治療に結びつくことが常であったが、今はそうではない。
 ★トロントでは医者、看護師だけでなく、家族含めみんなで作る小児医療が実践されていた。
 ★病院はボランティアの自主性に任せるだけでなく、明確な理念とともに組織だてやっていくことが必要ではないか。
 ★在宅で呼吸器を使用している患者が増えている背景をふまえ、医療者だけでなく、家族や市民も勉強して医療安全を実施していく必要がある



坂上和子代表の講演

★病院はボランティアを入れることに抵抗があって「なんかあったらどうするんだ」という。それではボランティアは入れない。ボランティアのスキルを生かして活動しやすく調整する人が必要で、それがコーディネーターの役割。
 ★ボランティアは無償の労働力ではないし、ボランティア自身も学びがあり、生き甲斐となっている。子どもの入院に焦点をあてたボランティアコーディネーターの育成が必要
 ★全国で活動するボランティアや団体とコーディネーターがつながれば小児医療全体の活動の質が上がる。
 ★少なくともまず小児がん拠点病院には専任のコーディネーターを配置するなど国も考えて欲しい



野中淳子教授の講演

★ボランティアコーディネーターの資格制度については現在のところ、資格制度や独占する業務はない
 ★がんの子どもが入院する 204 施設のアンケート結果ではボランティアを受け入れているが 85%、いないが 15%。コーディネーターがいる 52%、いない 48%であった。コーディネーターは兼任が 7 割、専任が 3 割であった。
 ★ほとんどの病棟でボランティア活動が行われており、ボランティアの活動を看護師が意識してみたり何らかの関わりをもっていることが伺える。しかし、ボランティア・コーディネーターへの理解は低くコーディネーターへの理解を高めていく必要がある



パネルディスカッション



沖縄：コーディネーターの要件に看護師とあり、私は元この看護師です。現在ボランティアは外来、病棟のプレイルーム、マッサージの活動など多岐にわたります。曜日ごとにボランティアのグループがあり、「何をしたいか」希望を聞いて配置を考え、ボランティアの勉強会やイベントの協力の調整を主にしています。離島から高度医療を受けにくる家族が多く兄弟が 5.6 人いる家族が多いのも特徴で、きょうだいの預かりなどもしています。

宮城：「すべての子どもに命の輝きを」の理念の元で病院らしくない病院を目指して、建物も吹き抜けで、子どもが楽しめるようになっています。私自身は元ここで言語療法士をしていました。ボランティアが自立していて、広報誌を編集したりベテランが新人を支えてくれるシステムが整っています。肢体不自由児の施設が併設されたことで、兄弟児預かりの数が倍以上に増えています。トロントの視察がヒントとなり、戻ってから、ボランティア部門に職員が必要だと訴えて、補佐が就くことになりました。こうしたつながりがあると力になります。

神奈川：前職は看護師です。看護職をしているより、今のほうが病院と関係が深まっているように感じます。ボランティアを病院が無くてはならない存在だと認めています。またボランティアもグループごとに主体性をもち、自主的なのも強みの 1 つです。兄弟預かりも含めて約 370 人が 30 グループで活動しています。

愛知：コーディネーターはいません。保育士 8 名いて、兼務していますが兼任ではうまくいかず、今は定期に来るボランティアが 20 名に満たないです。専任のコーディネーターが必要だと感じています。

大阪：私は 2 代目です。主婦で、病院でボランティアをしていたところ、声をかけられました。その前に 10 年のベテランコーディネーターがいて、検診費用 (X線・4 抗体検査) は病院が負担するシステムを整えてくれました。来年 25 年になるので、記念行事をしようと企画しています。10 年以上続けている方が多く、ボランティアの高齢化もあって無理をしないよう、継続して頂けるように、調整しています。

会場から

- A：**事務職と兼任の職員です。私たちはどんな人が、ボランティアにきている把握しきれていないし、希望者がいるときは上に話を持っていくと「誰が責任とるの?」と言われてたり。ボランティアを見極めたり、教育するシステムもないのが課題です。
- B：**については、原則みません。どうしても病院に連れて来られた場合は職員が面会室でみています。
- C：**うちは兄弟預かりはボランティアではなく保育士を雇ってやっています。2 年前に病院が移転し、今は入院・外来問わず兄弟を保育士が預かります。
- D：**ボランティアの方から病院に「コーディネーターが欲しい」とお願いして採用されたので、今は子どもたちと全力で向き合えるようになりました。ボランティアがコーディネーターまでは出来ません。
- E：**病棟看護師です。保育士は 1 人で、ボランティアの介入なし。夏祭り等病棟のイベントは看護師と保育士でやっていて、ボランティアをやりたいという医学部などの学生は多いけど、管理上なかなか難しいのが現状です。
- F：**医療評価機構ではボランティアがいるとポイントが高くなるとかはないのか? (前はあったのに)
- D:**1 万円とかする抗体検査費用をボランティアの自己負担で来てというのもどうかなど。

参加者感想 (ボランティアコーディネーター=VC ボランティア=V と表記)

会への参加を募ります

初めての「小児医療施設ボランティアコーディネーターの会」を神奈川県立子ども医療センターで開催できたことに対して、参加された皆様をはじめ関係者の皆様に感謝いたします。そして参加の呼びかけに、多くの施設の皆様が耳を傾け関心を持って話を聞いてくださいましたことに感謝申し上げます。会を立ち上げ、こうして会のご報告ができました。コーディネーターは、専任は少なく、多くの施設は兼任で業務にあたっています。それぞれの施設で多くの課題を抱えていることを、再認識しましたし共有できました。この会で、情報交換することでヒントを得たり、力をもらうことも実感しました。キリン福祉財団の多大なご協力でスタートしました。徐々に自分たちの足で歩いていくなりたいです。皆さんと一緒に取り組み、会の発展を願います。小児医療施設において、病気のこどもと家族のためによりよい療養環境を作っていくことは必須です。医療事情も切迫しています。ボランティアさんの力なくして、暖かい施設作りは難しいです。ボランティア活動を活発化するためにもコーディネーターの会への参加を募ります。

神奈川県立子ども医療センター
 コーディネーター・加藤悦興

- ★経営のトップが必要だと考えれば、「誰が責任を取る」など言わないはず V
- ★地域の違いもあり、すべてが同じように VC を遂行していくのは難しいと思うが、取り入れられることは参考にしたい。VC
- ★内部署が発展できない理由が分かった。◀窓口
- ★VC のやる気次第で、V のパワーが、百にも二百にもなると思った。VC
- ★当院にも VC を専任でおけるように働きかけていきたい。◀窓口
- ★VC 歴 1 年、先輩方の話を聞いて、貴重な時間になった。VC
- ★多くの VC と出会う、自分だけで悩んでいたことが共有できた。VC
- ★VC は「ひとり職」「マニュアルのない仕事」、他を知ることで、自分を認めるものとの会を毎回感心している。定期的に開催して欲しい。VC
- ★小児病院の実情はどうに継続してもらおうか、やりがいを見出していたかどうか、日々思い悩んでいる。VC
- ★海外で多くの人数が確保されているのは、病院の運営システムの違い。日本の診療報酬制度では病院の収益に限界があるからではないか
- ★連携をとることで、ボランティア活動が発展すると思う。VC
- ★保育士として他にまだできる事があるのではないかと思った。保育士うちではまだ進んで今ないので、少しずつでも進めていきたい。小児看護
- ★現場で働く VC と V の話を拝聴できたこと貴重な機会だった。V
- ★入院期間が長くても、短くても V は必要だという話気づきがあった。
- ★子どもや家族にとっても V は心強い存在だと思える。V
- ★病院によってこんなに V 活動が違うのかと驚いた。V
- ★自分のいる病院の V はまだまだだと思っていたが、病院の中にすら入れず困っている病院もあると知り逆に驚いた。V
- ★双方向から黎明期病院へのかかえる課題を討議されたことは画期的なこと。キリン福祉財団の財政的な支援のおかげ。事務局 S
- ★VC や V の方々の活躍ぶりすごい。エネルギーをもらった。看護師
- ★素晴らしい。このような全国集会を企画しやり遂げる実行力、会の進行、発言の内容もすべて！今日は参加させて頂いて嬉しい一日だった。V
- ★施設の実態、これだけ数多くの課題が浮きぼりになっただけでも、大いに価値ある kick off であったと思う。キリン福祉財団 K